

# 9. サイン計画について

## サインの主な配置(案)

- ①案内サイン:プロムナード全体を記した案内サインは、来訪者の交通の拠点となる石巻駅や、各拠点の要所に設置する。
- ②誘導サイン:プロムナードやその周辺道路の分岐点となる箇所に設置する。
- ③説明サイン:石巻の歴史や文化等を伝える各施設に対し説明サインを設置する。

ルート・拠点	番号	説明サインの例
拠点B	①	北上川河口と海難救助の歴史
	②	港の歴史
ルート②	③	北上川河口と海難救助の歴史
	④	門脇町の歴史
ルート③	⑤	一皇子宮
	⑥	慈恩院
	⑦	箱崎八幡神社
拠点D	⑧	北上川や中瀬での造船の歴史
	⑨	大嶋(住吉)神社、住吉公園
拠点C	⑩	船着場の歴史
	⑪	立町・羽根町等の歴史
ルート④	⑫	住吉町、千石町の史跡
	⑬	昔の水遊風景
ルート⑥	⑭	石巻専修大学の桜

※説明サインは、将来にわたって更新・充実を継続

【凡例】

- プロムナードルート ①～⑥
- 拠点 B～H
- 案内サイン
- ➡ 誘導サイン
- 説明サイン ①～⑭



① 雲雀野海岸

※拠点B:旧計画の拠点A、B、Eを統合

## 9. サイン計画について

### 【プロムナード計画の利活用の推進に向けた提案】

#### ●サインプロジェクト（仮称）

サインプロジェクト（仮称）は、市民、行政、学識経験者など「いのまき水辺の緑のプロムナード計画」に係る人たちの連携と協働により、サインの検討から設置を行う。また、設置後のサインの更新や充実を図る活動を継続的に行うことを想定する、市民参加型のプロジェクトとする。

▼サインプロジェクト（仮称）の連携・協働イメージ



#### ●サインプロジェクトの活動方針（案）

サインプロジェクトは、以下の3つの方針で活動する。

**方針①** 石巻の歴史や文化・産業を、観光客等の外来者に分かりやすく説明するとともに、市民にとっても、学習しながら古き良き石巻の姿に思いを馳せることのできるサインの検討を行う。

**方針②** 活動を通じて、石巻の歴史・文化の伝承の担い手を育成する。

**方針③** 参加者が楽しみながら活動し、将来にわたって継続する。

### 活動内容（案）

#### ①ワークショップ等によるサインの検討

・ワークショップ等を開催し、石巻の歴史、文化、産業等の解説や、個々の施設の説明等を市民との協働により検討する。



▲ワークショップの事例写真

#### ②市民によるサイン検討と設置

・サインの配設置や製作、設置など、実施に向けた検討を行う。  
・例えば、製作から設置までを市民自らが実施するなどにも考えられる。



▲説明看板のイメージ  
市民視点でわかりやすく、深みのある説明文を作成

#### ③プロムナードマップの作成

・市街地の観光施設や魅力あるポイント、トイレ、食事処、バス停留所、回遊する散策路などを分かりやすく記したマップを作成する。



▲フットパスのイメージ（最上川朝日地区）

#### ④プロジェクトのフォローアップ

・分かりやすさや見やすさ等について、来訪者のヒアリングやアンケート等を実施しながら検証し、継続的にサインの内容更新や設置箇所追加、充実を図っていく。



▲イベント風景の事例写真（遠賀川）

# 10. プロムナード計画の避難の考え方

## 各拠点、ルートの特徴

- ・プロムナード計画の各拠点、ルートは、海に近い沿岸、河川沿いであることから、プロムナード計画での避難は、主として津波を考慮する。
- ・プロムナード計画の各拠点、ルートから避難することを想定した場合の現状は図のとおりである。

【ルート④・⑥・拠点F】  
 ・右岸側は、小学校やマンション等があるが、場所によって距離がある。  
 ・橋を渡って対岸の山まで逃げようとする時間がかかる。  
 ・左岸側は、近くに高いところがない。最寄りの山まで逃げようとする時間がかかる。

【ルート⑤・拠点G・拠点H】  
 ・運河沿いにマンションや事務所、学校等の高い建物があるが、場所によって距離があり、スムーズに移動できる避難路も少ない。

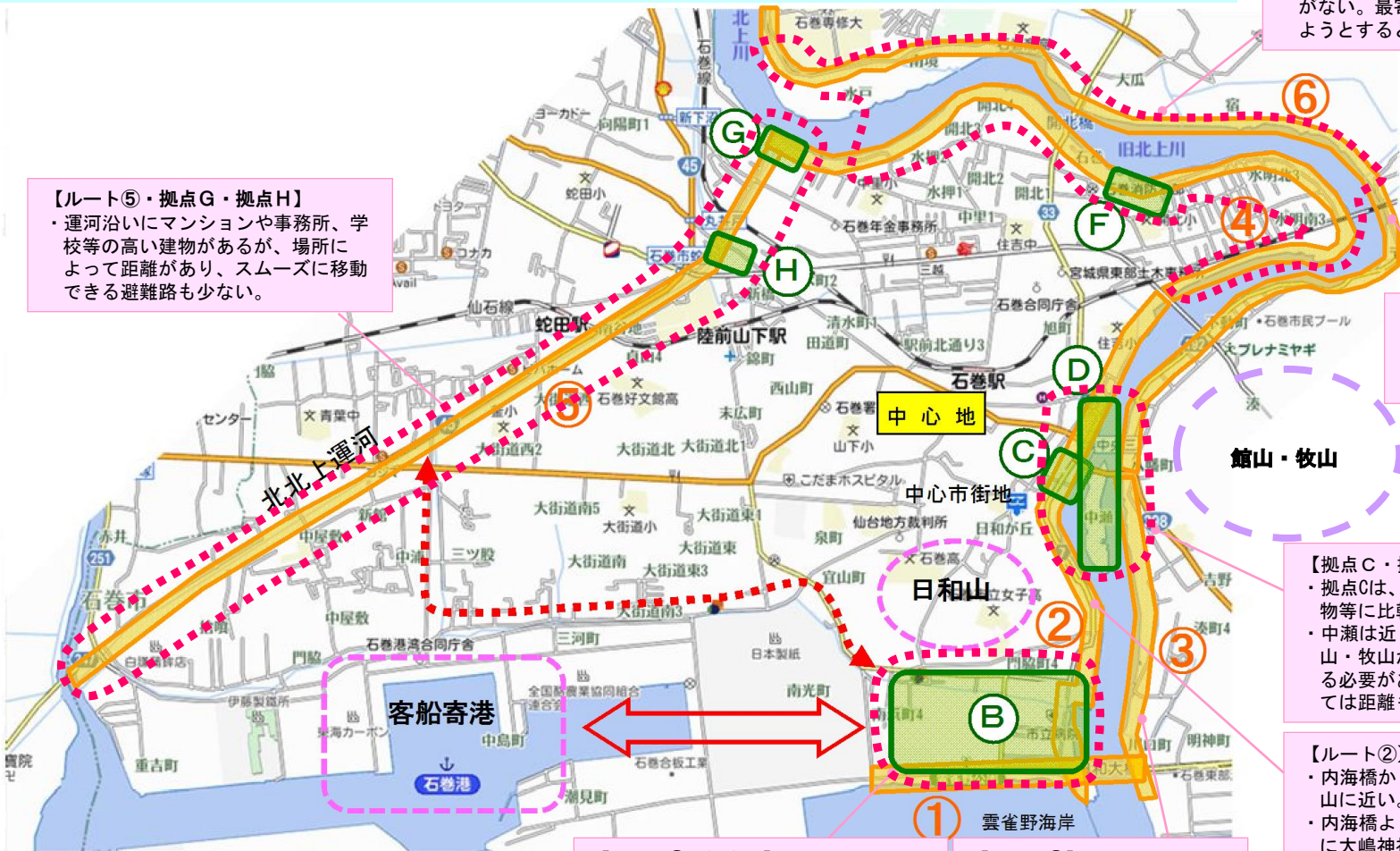
【ルート⑥】  
 ・ルート⑥の下流は、館山・牧山に近い。

【拠点C・拠点D】  
 ・拠点Cは、日和山や高い建物等に比較的近い。  
 ・中瀬は近くに日和山、館山・牧山があるが、橋を渡る必要があり、場所によっては距離も遠い。

【ルート②】  
 ・内海橋から下流側は、日和山に近い。  
 ・内海橋より上流側は、近くに大嶋神社の裏山や住吉小学校等の高い所がある。

【ルート①・拠点B】  
 ・海岸沿いは、近くに高い場所がない。  
 ・拠点Bは広大な平地であり、場所によっては日和山への避難に時間を要する。

【ルート③】  
 ・近くに館山・牧山があるが、場所によっては館山・牧山までの避難に相当時間を要する。



# 10. プロムナード計画の避難の考え方

## 避難の考え方と課題

- ・各拠点・ルートともに、基本的には近くの山や、高い建物、または内陸側に向けて避難することが必要であり、誘導のサイン等も検討していく。
- ・近くに避難できる山や建物がなく、時間がかかる場合には、避難ビル等の、新たな避難施設を確保することが今後の課題となる。

### 【ルート④・⑥・拠点F】

- ・左岸側は近くの山や学校への避難が、右岸側は近くの建物等への避難が想定されるが、場所によって避難に時間がかかるため、避難施設等の避難場所の確保や的確な誘導が課題。

近くの山や学校へ

凡 例



避難方向

### 【ルート⑤・拠点G・H】

- ・場所によって避難に時間がかかるため、避難施設等の避難場所の確保や、的確な誘導が課題。

### ※山への避難路

- ・山への避難路は、急勾配で幅が狭い箇所もあり、高齢者等への配慮が課題。

### 【ルート①・拠点B】

- ・日和山に最短で避難できる避難路の確保や的確な誘導が課題。
- ・場所により、日和山までの避難に時間を要することから、折念公園内での高台や避難施設等の確保も必要。

### 【ルート③】

- ・場所により館山・牧山まで相当の時間を要するため、高台や避難場所の確保、的確な誘導が課題。

### 【拠点C・拠点D】

- ・拠点Cは日和山に最短で避難できる避難路の整備が課題。
- ・拠点Dは、中瀬下流側等、場所によって避難に時間がかかるため、避難路の整備や、避難施設の確保、的確な誘導が課題。

### 【ルート②】

- ・近くの建物や日和山への避難が想定されるが、場所によって避難に時間がかかるため、避難路の整備や、避難施設の確保、的確な誘導が課題。

